

大屋富士

伸びよ 豊かに たくましく

令和元年 12月 18日
養父市立大屋中学校
学校だより 第10号
TEL 079-669-0111

2学期末の懇談会に寄せて

前号で、本校の3年生が11月に行った「柚子収穫体験活動」を紹介しましたが、市の広報誌「やぶ」12月号の5ページにも記事を掲載いただいています。市の話題として取り上げていただいたことに感謝しています。ぜひ、ご覧ください。

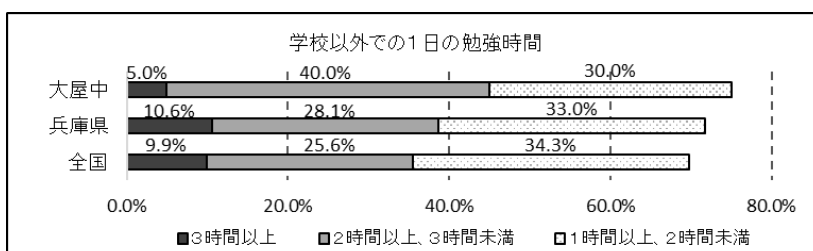
さて、すでにご覧いただいていることと思いますが、同じく市の広報誌「やぶ」11月号の8～9ページに、今年4月に中学3年生と小学6年生を対象に実施された**全国学力・学習状況調査**の結果について、市全体の概要が掲載されています。

「教科に関する調査」として実施された**国語、数学、英語に関する本校の結果**については、いずれも**国全体、県全体と同程度**でした。結果から見える課題等も、広報誌に掲載してある市全体の状況と同様の状況です。とは言うものの、「同程度で良し」と言うことでは決してなく、授業の工夫・改善を含めた今後の方策をしっかりと考え、実践を積み上げていくことが重要だと考えています。

中でも、本校の生徒の状況について気になったことは、国語、数学、英語のいずれにおいても、「**解答時間は十分でしたか**」という質問に対して、「やや足りなかった」「足りなかった」と回答した生徒の割合が、国や県全体の割合を上回る状況（最大で19ポイントの差）でした。このことについて、本校の生徒は「じっくりと考えをまとめながら粘り強く解答しようとするから」ととらえることもできるでしょうし、「時間を意識して、時間内にてきぱきとこなそうとする姿勢に乏しいから」ととらえることもできるでしょう。どちらにせよ、国や県全体の割合と比べて大きく差が生じたこの状況を踏まえて、普段の授業において、提示された課題を自分で把握する時間や、それを自分で解決する時間の確保等、生徒自らがさらに時間を意識して取り組む学習活動の工夫が必要かもしれません。

「教科に関する調査」とともに行われた「生徒質問紙」にも関連する質問がありました。「学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」という質問です。回答状況は、〈グラフ1〉とおりです。

本校の生徒の状況について言えば、「2時間以上、3時間未満」が4割と多く、



「1時間以上、2時間未満」も合わせた割合は、国や県全体の状況と比べ約5ポイントも高い状況です。「3時間以上」と回

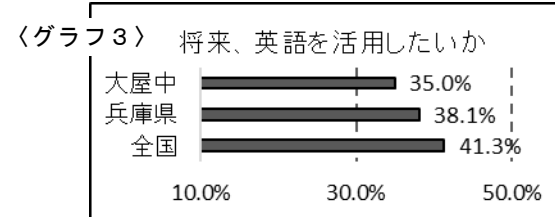
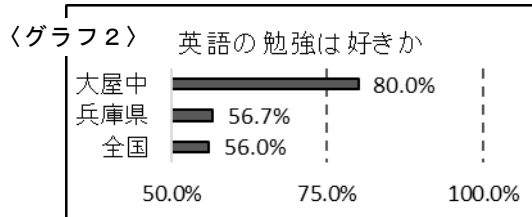
〈グラフ1〉

答した生徒の割合が本校生徒のおよそ2倍の割合となっていることにも留意は必要ですが、概して本校の生徒は、学校以外においてもよく勉強に取り組んでいる状況であると言えます。

但し、これはあくまでも時間です。勉強の質はいかがでしょうか。集中の度合いや取り組み方はいかがでしょうか。勉強の質と集中力を高めて、「1時間以上、2時間未満」でガッチリと勉強し、特に取り組みたい時は「3時間以上」がんばるなど、生活にメリハリを付ける方法も工夫できるところではないかと思えます。

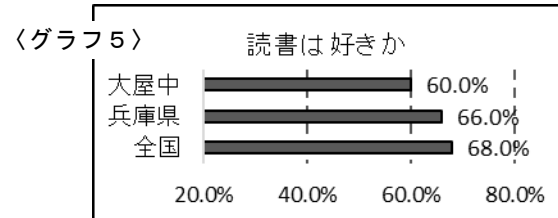
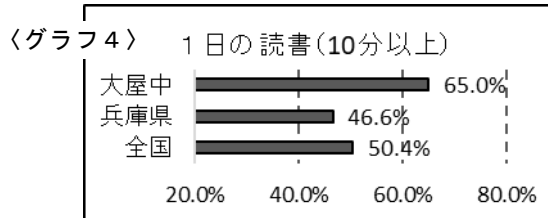
他にも「生徒質問紙」から、いくつか興味深いデータを紹介します。

【英語の勉強は好きなのに・・・】



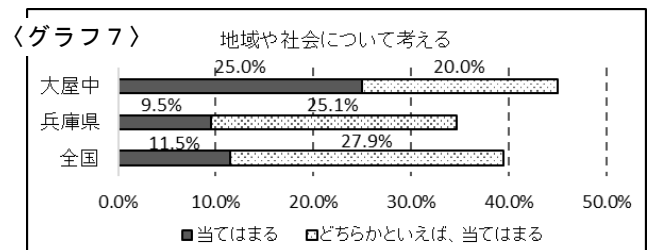
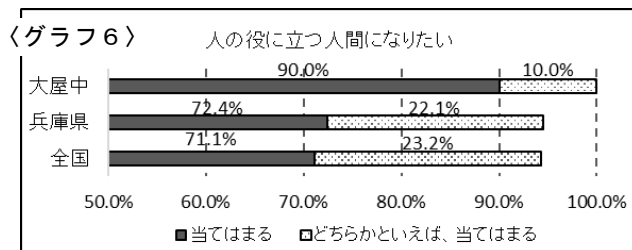
「英語の勉強は好きですか」という質問〈グラフ2〉に対して「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答をした生徒は8割。国や県全体の割合と比べて約24ポイントも上回っています。一方、「あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたリ職業に就いたりしたいと思いませんか」という質問〈グラフ3〉に対する肯定的な回答は、3割程度。国や県全体も低い傾向ながら、本校はそれよりも下回っています。なんで？

【読書はするけど・・・】



「1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問〈グラフ4〉に対して6割の生徒が「1日10分以上はする」と回答し、国や県全体と比べて約15~20ポイントも上回っています。一方、「読書は好きですか」という質問〈グラフ5〉に対する肯定的な回答は、国全体や県全体の割合と比べてやや下回っています。なんで？

【頼もしい限りです!!!】



「人の役に立つ人間になりたいと思いませんか」という質問〈グラフ6〉への肯定的な回答は100%でした。加えて、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という質問〈グラフ7〉にも、5割近くの肯定的な回答がありました。どちらも国や県全体の割合と比べて大きく上回っています。ありがたいことです。

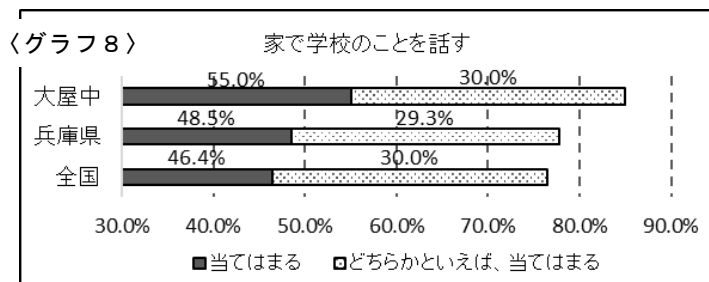
令和3年度(2021年度)から全面実施となる中学校の新学習指導要領は、現行の学習指導要領を継承する形で、新しい時代を生きる子供たちに必要な資質・能力として次の3つを示しています。

- ①実際の社会や生活で生きて働く「基礎的・基本的な知識・技能」
- ②未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」
- ③学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性など」

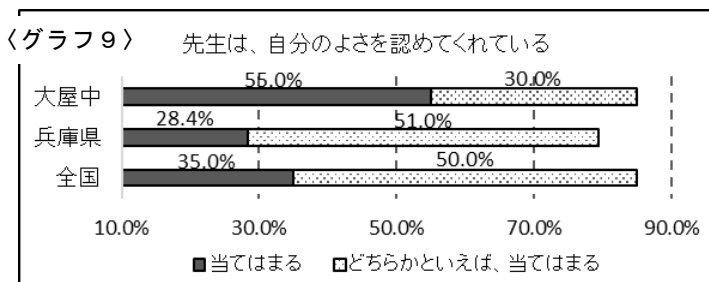
ともすれば、①の「基礎的・基本的な知識・技能」だけに目が向き、例えば、反復による学習等による漢字や計算の習得、学習事項の暗記といった勉強が求められがちですが、これからは、①の力をいかに活用していくかという②「思考力、判断力、表現力等」が求められます。加えて、「なぜ、学ぶのか」「どのように学ぶのか」を考えながら学んでいこうとする③「学びに向かう力」が大いに大切にされます。お子様の①②③のそれぞれの状況やバランスは、いかがでしょうか。

「今の大人が経験したことのない、将来の変化を予測することが困難な時代」を生きると言われる今の子どもたちには、仲間と知恵を出し合い協働しながら課題に対応していこうとする力の育成が求められます。そのためにも、①②③の資質・能力のバランスのよさが大切です。そして、こうした力は、授業だけで身につくものではなく、部活動を含む学校での様々な活動と、ご家庭や地域でのかかわりが合わさって総合的に身につけていくものだと考えています。

「生徒質問紙」において、「朝食を毎日食べていますか」という質問に「食べている」と回答した生徒は100%でした。国や県の状況は8割です。また、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」や「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という質問に「はい」と答えた割合は、国や県の割合に比べて、24ポイントも上回っている状況です。こうしたご家庭での状況があつてこそ、本校の生徒たちの良さが輝いているのだと改めて実感しているところです。



「家の人と学校での出来事について話をしますか」という質問〈グラフ8〉に対しても、国や県の状況を大きく上回っており、生徒たちの安心感は、やはりここにあることを確信しています。



また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問〈グラフ9〉に対して、8割の生徒が肯定的な回答をしてくれていることにありがたいと思っていますし、さらにこの状況を高められるように、教

職員一同、今以上に気を引き締め、生徒のために力を尽くしていこうと思っています。今後とも、よろしくお願いいたします。

次の進学、進級に向けて、生徒自らが前向きに取り組み、自分の伸びが自覚できる冬休み、そして3学期にしてくれることを願っています。